

テーマ別パスファインダー



ロシア映画特集



✦ パスファインダーとは？

Pathfinder（パスファインダー）とは、探検者／草分け／開拓者の意。レポート作成や論文作成で、何をすればいいのか、どこへ行けばいいのかわからない！そんな人のための助けになるように作成した、学問の「道しるべ」です。

作成日：2013年7月4日
大阪大学 外国学図書館 | 箕面キャンパス |
ラーニングコモンズ るくす | LSチーム

I. イントロダクション

ロシア映画特集とは？

文字通り、見ているうちにだんだんロシアという国に魅了されていく映画ばかりを取り上げています。ロシア映画といって真っ先に思い浮かぶのはチェブラーシュカでしょうか。しかしそれだけではありません。日本ではあまり有名でなくても、芸術大国ロシアには素晴らしい映画が数多く存在しています。

関係分野：ロシア、映画、美術、哲学

II. 初めてのロシア映画

＜ ロマン・カチャーノフ『チェブラーシュカ』2008 (DVD 発売年)

ロシア史上最も愛されている人形童話「チェブラーシュカ」。日本でもすっかりなじみ深いキャラクターになりました。ところでチェブラーシュカの名前の意味は「ぼったり倒れ屋さん」。

【外国図-3 階 AV 資料 R-0137】

III. ロシア・アニメ代表作

＜ ユーリーノルシュテイン『霧の中のハリネズミ』1975

ハリネズミは小熊と星を見るためにジャムを片手に道を歩く。やがて森に差し掛かったところで深い霧のなかに迷い込み、そこで白馬に出会う…。ロシアの映像作家として世界中から愛される作品を作り続けているノルシュテインの、技術の粋が集められた一作。【外国図-3 階 AV 資料 R-0010】

＜ アレクサンドル・ペトロフ『老人と海』1999

言わずと知れたヘミングウェイの代表作「老人と海」をアニメーション化した作品。2万9千枚のガラス版に描かれた油絵からなるこの作品は、印象派の画風を思わせる独特の淡い色合いを放つ。老いたとはいえ力強い老人とカジキマグロの戦いは、たとえヘミングウェイの原作を知っていても引き込まれてしまうほど圧倒的な迫力を持つ。

＜ レフ・アタマーノフ『雪の女王—カイとゲルダ—』1957

雪の女王はもともとデンマークの作家・詩人であるアンデルセンの作品。1957年ソ連のソユーズムリトフィルムによって長編アニメーション作品として上演された。キャラクターの動きはよく練りこまれており、主人公ゲルダはしぐさ・表情が実在の生きている少女を思わせるほど精巧だ。目的のために積極的に行動するゲルダの姿からは、運命に翻弄されるディズニーアニメとの違いが見て取れる。

IV. 映画好きのためのロシア映画

＜ ニキータ・ミハルコフ『太陽に灼かれて』1994

旧ソ連映画を代表する名匠ニキータ・ミハルコフが30年代のスターリンの大粛清をテーマに、激動の時代に引き裂かれた男女の悲劇を描いた人間ドラマ。ミハルコフが主演を兼ね、脚本をルスタム・イブラギムベークと共同で執筆、製作にも参加している。【外国図-3 階 AV 資料 R-0181】

＜ アンドレイ・ズビャギンツェフ『父、帰る』2003

2003年に作成されたロシア映画。音信不通だった父親の12年ぶりの帰郷に戸惑う兄弟を描いた作品である。父親の横たわる姿の構図、また食卓でパンをちぎって配る姿は明らかにキリストと重ねあわせられている。謎めいた父親の姿が物語の結節点となり、寂寥感ただようロシアの大自然を背景として撮影されたこの映画は、ロシア映画史に残る名作である。【外国図-3階 AV 資料 R-0150】

＜ エリダール・リャザーノフ『運命の皮肉』1975

同じ住所を持つモスクワの男とペテルブルクの女性が、ひよんなことから大晦日に出会い一緒に新年を迎えるラブコメディ。撮影はほとんどアパートの一室で行われているにもかかわらず見る者を退屈させないのは、一重にアンドレイ・ミャフコフとバルバラ・ブリルスカの演技力のおかげだろう。現在、ロシア人は大みそかの晩この映画を見て年越しをするのが風習になっている。

＜ アンドレイ・タルコフスキー『鏡』1975

この作品はタルコフスキー監督自身の自伝的映像詩である。物語のあらすじは直線的ではなく、過去と未来が交錯するように描き出される。そこに、一枚のタブローにいくつかの物語の挿絵を描くロシア正教会のイコンの影響を見て取ることも可能だろう。また映像の中で「水」「火」「風」といった自然現象が幻想的で繊細なイメージを作り上げている。【外国図-3階 AV 資料 R-0032】

V. 奇妙なロシア映画

＜ ゲオルギー・ダネリヤ『不思議惑星キン・ザ・ザ』1986

ソビエト時代に作成されたコメディ、SF作品。ソ連全土で1570万人を動員し、その後も世界中でカルト的な人気を博し続けているという。物語は二人の男がテレポート装置によって惑星プリュクに飛ばされてしまうところから始まる。異星のディストピアな設定はソビエト社会の寓意ではないかと言われているものの監督の真意は不明。【外国図-3階 AV 資料 R-0141】

＜ アンドレイ・タルコフスキー『惑星ソラリス』1972

惑星ソラリスで探索を続けていた宇宙ステーション「プロメテウス」との通信が途絶えたため、心理学者クリスが派遣される。そこでクリスが目にしたのは友人の自殺死体、いないはずの人物の痕跡…。冗長でテンポが悪くやたらと長いこの映画に、タルコフスキー自身「意図的に観客を退屈させるような作風を選んだ」と後に語っている。【外国図-3階 AV 資料 R-0018】

＜ ワレーリイ・フォーキン『変身』2002

フランツ・カフカの名作「変身」を映画化した衝撃の作品。CGなどの技術は一切使わず、主演のエヴゲーニイ・ミローノフが全くしゃべらず身体動作のみによって「虫」を演じている。連日11時間カメラの前で「虫」として這いまわり続けたミローノフの演技は、原始的表現ツールとしての人間の「身体」が持っている可能性に対する果敢な挑戦である。

＜ アレクサンドル・ソクーロフ『ストーン/クリミアの亡霊』1992

リゾート地ヤルタのチェーホフ館は実は墓の上に建てられた不吉な建物。夜誰もいないはずの建物の中に人影を見た番人の青年が中をのぞくと、暗い浴室の中で男が服を着たまま水を浴びている。なんとこの館の主であったチェーホフが蘇ったのだ！全編が歪んだ鏡像のような画面は、作品の妖しい雰囲気を高める。ノイズや自然音はそれ自体ひとつのアートとなりうるほど冴えわたっている。不思議な映画が見たい人におすすめの一作。

VI. 日本とロシアを扱った作品

＜ 黒澤明『デルス・ウザーラ』1975

世界の黒澤によって撮影された日ソ合作映画。シベリアを舞台としたこの作品は、ロシア人探検家ウラジーミル・アルセーニエフの探検記録を基に製作されたという。シベリアの広大な自然を背景に、アルセーニエフと猟師であるデルス・ウザーラの交流が描かれる。【外国図-3階AV資料 R-0006】

＜ 佐藤純彌『おろしや国酔夢譚』1992

大黒屋光太夫をはじめ神昌丸の乗組員17名は、嵐に遭いロシア帝国属領のアムチトカ島に漂流する。次々に仲間を失いながらも、日本へ帰ることを夢見る光太夫たちは当時のロシア帝国の女帝エカテリーナ二世に会いに行く…。

✧ [パスファインダーの凡例]

＜ 図書の情報は以下の順に表記しています。（主に論文の参考文献に使われている書式です。）

著者名（出版年）『本の名前』 出版社名， 翻訳者名（あれば）

＜ 説明の最後に、【 】で貸し出し可能な図書館と配架場所、請求記号を記しました。

総合図 → 総合図書館（豊中キャンパス）

生命図 → 生命科学図書館（吹田キャンパス）

理工学図 → 理工学図書館（吹田キャンパス）

人図 → 人間科学研究科図書室（吹田キャンパス）

外国図 → 外国学図書館（箕面キャンパス）

外国図-雑誌 → 直近1～2年に出版されたものは3階雑誌コーナー、バックナンバーは1階書庫

電 → 電子ジャーナル、電子ブック

※雑誌、電子ジャーナルは、すべての巻号が利用できるとは限りません。

＜ 検索を容易にするために、ISBN（各図書固有の識別番号）やISSN（各雑誌固有の識別番号）を記している場合もあります。

＜ 外国学図書館を中心に紹介していますので、記載している場所以外でも貸し出し可能な場合があります。図書館各階にある検索端末で確認するか、カウンター/LSデスクまでお尋ねください。